

ENSO の現況 (1994年 9 月)

エルニーニョ現象の推移の目安となる太平洋東部赤道域のエルニーニョ監視海域 (4°N~4°S, 150°W~90°W) の月平均海面水温の平年偏差と南方振動指数 (SOI: タヒチとダーウィンの海面気圧の平年偏差の差を規格化したものであり, この値が負のときは平年より貿易風が弱いことを示す) を, 第1図に示す. 1993年春から夏にかけてエルニーニョ現象が発生しており, 海面水温平年偏差の5か月移動平均値は0.5°Cを越えていたが, 1993年秋以降は, 平年並で推移している. 1994年9月の月平均海面水温偏差は0.0°Cであった.

一方, 南方振動指数も, 1993年の春から夏の大きな負の値から, 秋以降は小さい値を示していた. ところが, 1994年3月から大きな負の値を示すようになり, 9月まで連続して7か月間大きな負の値となっている.

9月にはいって, 太平洋上の対流活動は平年より東の日付変更線付近で活発となり, 赤道付近の風は太平

洋のほとんどの領域で西風偏差となった.

1994年9月の月平均海面水温偏差の分布 (第2図) では, 太平洋中部赤道域で正偏差となっており, 特に, 日付変更線付近で平年より1°C以上高くなっている. 同月の太平洋赤道に沿う海面から深さ400mまでの表層水温の断面を第3図に示すが, 日付変更線付近の海面の高水温域に対応して28°C以上の暖水の厚さが100m以上に達している.

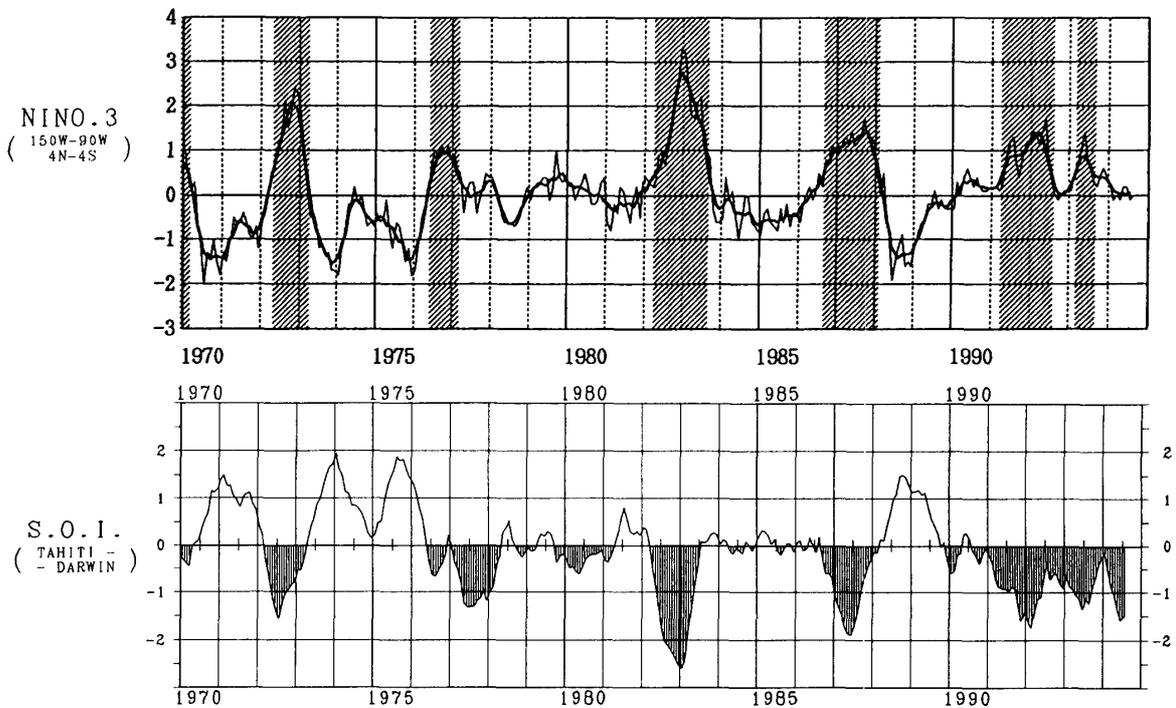
(気象庁海洋気象部海洋課

エルニーニョ監視センター 石川孝一

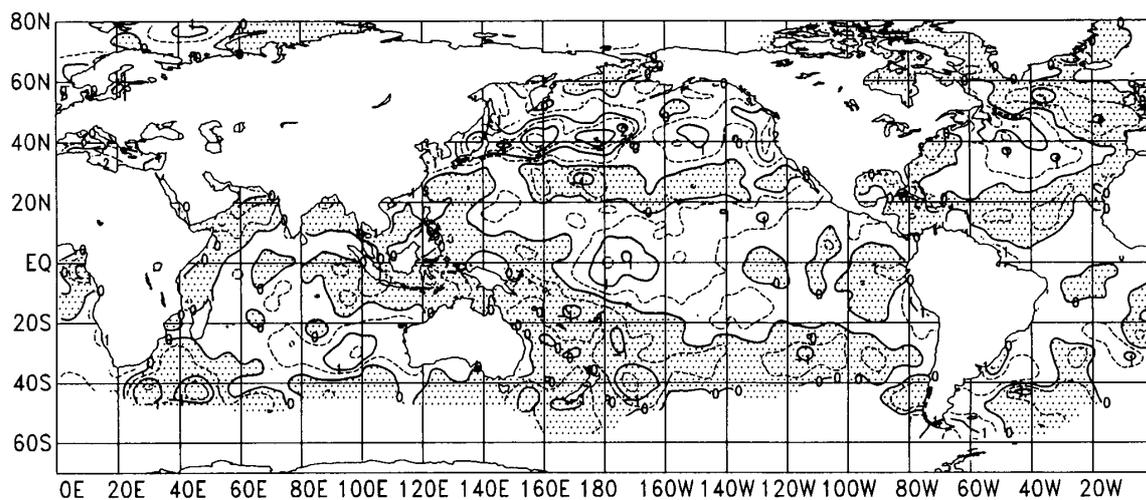
気象庁予報部長期予報課 林久美)

気象庁では, 「エルニーニョ監視速報」, 「気象庁海洋月報」により, エルニーニョ現象の状況を毎月発表しています. 詳しくは, 気象庁海洋気象部海洋課エルニーニョ監視センターにお問合わせ下さい.

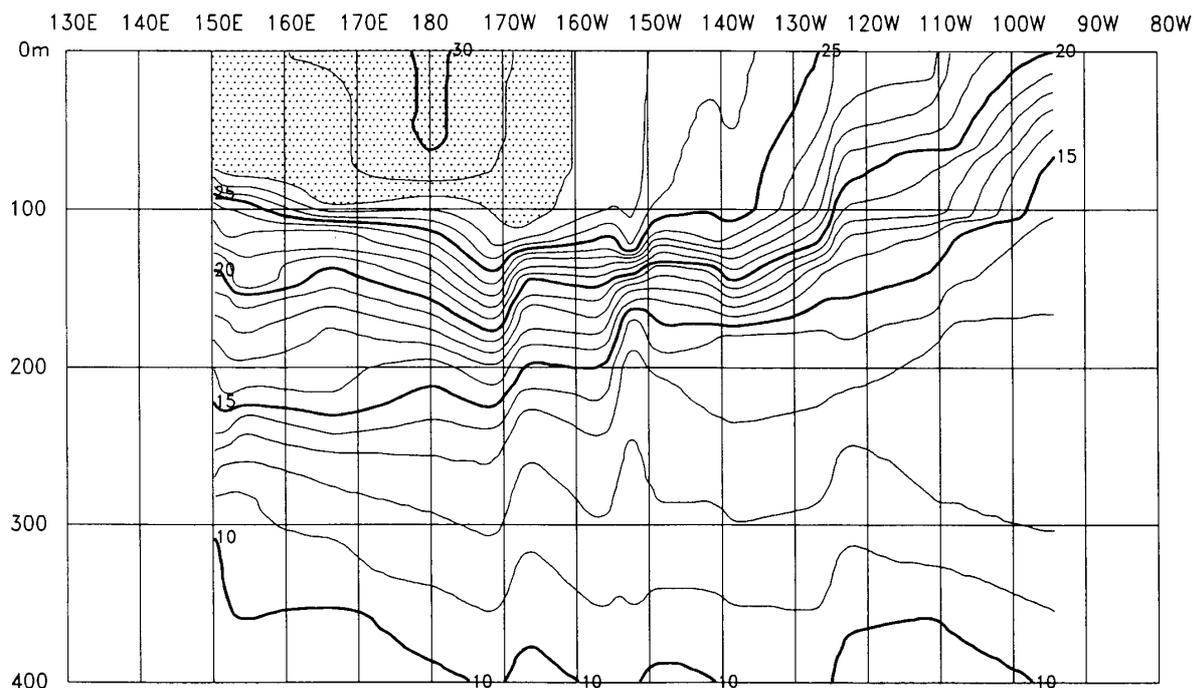
(電話: 03-3212-8341内線5134)



第1図 (上)エルニーニョ監視海域 (4°N~4°S, 150°W~90°W) の月平均海面水温平年偏差の推移 (単位: °C). 折線は月平均値, 滑らかな太線は5か月移動平均値を示し, 正の値は平年より高いことを示す (平年値は1961~1990年の30年平均). 過去のエルニーニョ現象の発生期間に陰影を施してある.
(下)南方振動指数 (SOI: タヒチとダーウィンの海面気圧の平年偏差の差を規格化したもの. この値が負のときは平年より貿易風の弱いことを示す.) の推移.



第2図 全球月平均海面水温偏差図 (1994年9月)
 実線は1°C毎, 破線は0.5°C毎の等値線を示す. 陰影部は平年より低いことを示す(平年値は1961~1990年の30年平均).



第3図 太平洋赤道に沿う表層水温断面図 (1994年9月)
 等値線は1°C毎, 陰影部は28°C以上を示す.